

2018 年度日本建築学会大会（東北）  
日本建築和室の世界遺産的価値特別調査  
パネルディスカッション資料

# 「和室」の 日本建築における価値を 改めて問い直す

2018 年 9 月

日本建築学会

日本建築和室の世界遺産的価値特別調査委員会

## 目次

はじめに	1
目次	2
<b>【講演者による論文】</b>	
服部岑生 「和室」	3
藤田盟児 「和室の起源と性格」	11
内田青蔵 『和室』の今日的様相—『タタミ』の動向を中心に—	16
上西明 「和室を考えるための 40 の家」	19
稲葉信子 『和室』は世界遺産になれるか	23
<b>【基調講演録：2017年12月8日開催シンポジウム】</b>	
内田祥哉 「和室に現れる日本建築の文化の本質」	26
藤森照信 「茶室学から見た和室」	36
パネルディスカッション（内田×藤森×服部 司会：小沢、藤田）	47
<b>【委員による論文】</b>	
安高尚毅 「和室考とその未来」	51
岡絵理子 「日本人の生活と床の間について—考察」	53
片山和俊 「住宅設計における和室の影響」（再録）	57
亀井靖子 「モダニズム建築と中廊下住宅から学ぶ『和室』の普遍的価値」	59
桐浴邦夫 「数寄屋と自然との関わり」	61
小池孝子 「女子大学生の和室における生活状況について」	63
鈴木あるの 「和室の現状と日本人の意識」	65
松村秀一 「畳割の文化」	70
中山利恵 「和室は生きてゆくのか」	71
道江紳一 「和のイズムとは—真行草と空間・時間の合一—」	73
矢ヶ崎善太郎 「和室の仮設性、臨時性あるいは可変性について」	75